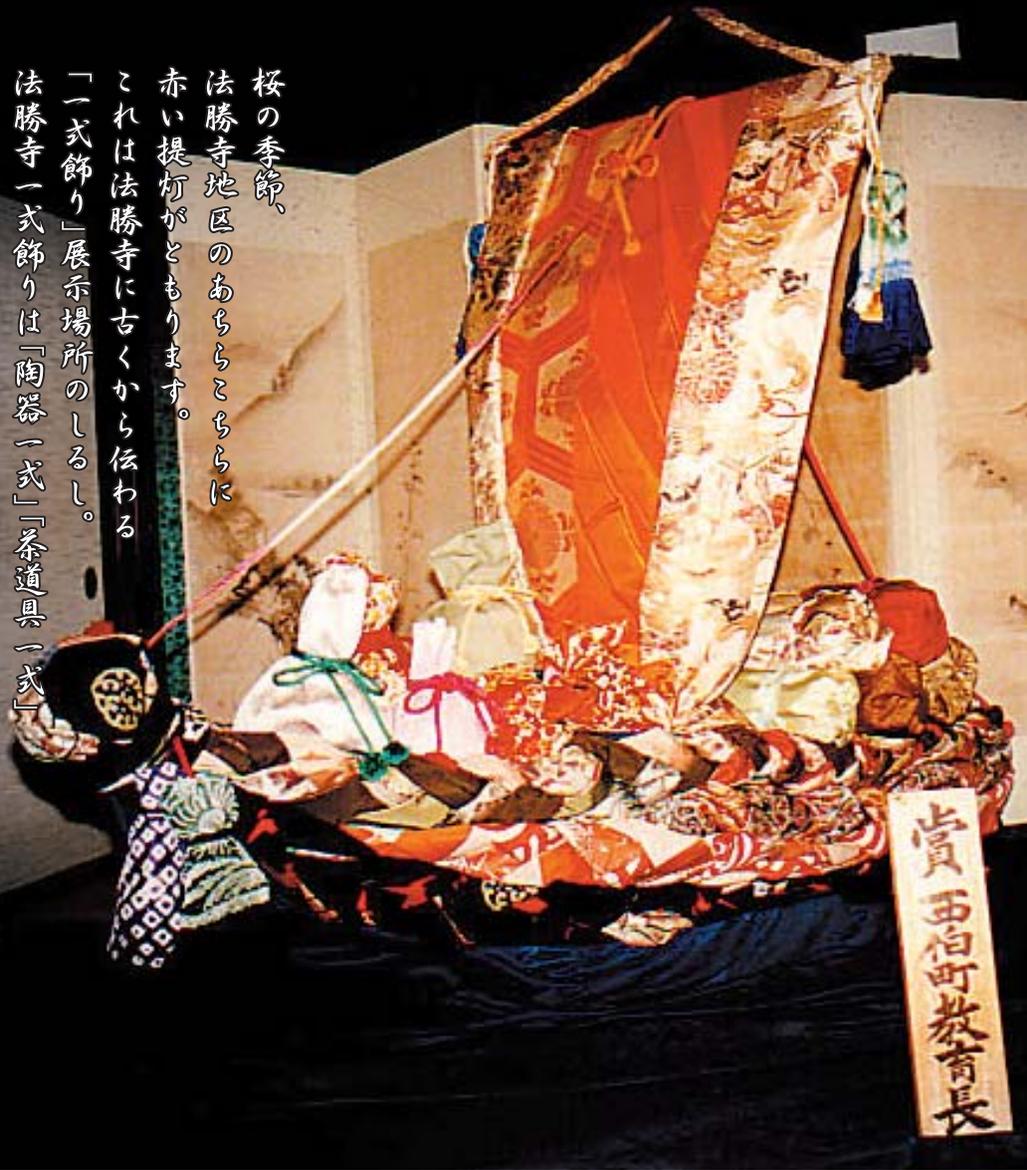


# 法勝寺一式飾り

四月九日(土)・四月十日(日)



桜の季節、  
法勝寺地区のあちらこちらに  
赤い提灯がとります。  
これは法勝寺に古くから伝わる  
「一式飾り」展示場所のしるし。  
法勝寺一式飾りは「陶器一式」「茶道具一式」  
「帯一式」など日常生活用品で作る全国的にも珍しい  
素朴な民衆芸術で、南部町の無形文化財にも指定されています。  
春の陽気に誘われて、法勝寺宿に出掛けませんか。

## ■一式飾りの歴史

一式飾りは近世後期、都市部で始まり、各地で流行しました。

法勝寺に伝わった時期は定かではありませんが、江戸末期か明治初期と言われています。

もともと小正月に歳徳神を祀るとんごさんの前夜祭として行われていました。当時からたくさんの見物客が訪れ、通りは大変賑わったといえます。昭和43年からは桜の開花時期と長田神社の祭りにあわせて春に行われるようになりました。

現在は毎年4月の第2土曜日・日曜日に開催されています。



(上)法勝寺公会堂のすぐ側に祀られている歳徳神



『造物趣向種』  
(つくりものしゅこうのたね)

(左)江戸時代に出版された手引書一式飾りの作り方が示されている法勝寺の旧家に保管されていた



(上・右)法勝寺宿の町並みと桜一式飾りには町内外から見物客が訪れる

